

平成30年9月28日

日進市立日進西中学校
保護者各位

日進市教育委員会 教育長 吉橋 一典
日進市立日進西中学校長 平山 雅之

平成30年度全国学力・学習状況調査結果について（お知らせ）

初秋の候、保護者の皆様にはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

見出しの調査は、3年生の生徒を対象として、国語・数学・理科について、その学力の一部を「知識」「活用」といった観点から調査したものです。また、生徒の学習意欲や生活習慣等についても、質問紙によって調査を行いました。この度、市全体と各学校の傾向をまとめましたので、その概要をお知らせいたします。基礎・基本の一層の徹底を図るとともに、調査結果を今後の学習指導に生かしていきたいと考えております。ご理解ご協力の程よろしくお願い申し上げます。

1 日進市全体の結果について

国語、数学、理科とも「知識に関する問題」（A問題）の方が「活用に関する問題」（B問題）より平均正答率が高くなっています。また、全国・愛知県の結果より、各教科ともに平均正答率が高くなっています。

（1）国語

どの領域・観点においても学力の十分な定着がみられます。特に、登場人物の言動や場面の展開などの描写について、内容を理解する能力に優れています。その一方で、「目的に応じて内容を整理して書く」能力に課題があります。文の成分や順序、構成を考えてまとめる学習活動に取り組んでいきます。

さらに学力を定着させるためにはどのような方策・工夫が必要であるか、各学校での分析・研究を通して、より良い教育活動につなげていきます。

（2）数学

どの領域・観点においても学力の十分な定着がみられます。特に、基本的な計算技能、方程式の解法、関数の基礎の理解について優れています。今後も、さらに基礎、基本的な知識・技能の定着をはかっていきます。

その一方で、「数学的な考え方」の領域への取り組みに課題があります。具体的には、「事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を説明する」能力です。優れた能力を生かし、情報を整理して言葉、数、式を用いて考え、説明する活動を充実させ、見方や考え方を深めることができるような学習活動に取り組んでいきます。

（3）理科

すべての分野、観点において高い定着がみられますが、地学的領域の正答率が他の領域の正答率と比べて若干下がります。今後は、観察や実験を通していくつかの事象を関連付けて、科学的な思考・表現をする力と自分の考えを文で記述（表現）する力を身に付けていけるよう学習の工夫を行っていききたいと考えています。

（4）生活面

自己肯定感が高く、「学校の規則を守る」など規範意識を大切にしている割合が高くなっています。さらに「人の役に立つ人間になりたい」と感じている生徒の割合も高くなっています。また、授業の予習、復習に力を入れて学習習慣が身に付いています。今後も学校生活をより充実させていく取組を学習・行事を通して進めていきたいと考えています。

地域・社会の問題や出来事に関心をもって、地域の行事に参加している生徒の割合は高い傾向がみられます。また、ボランティア活動に参加した経験がある生徒の割合も高くなっています。この点を生かし、教育活動の中で地域との交わり、連携する場を増やしていきたいと考えています。

※ 裏面に本校の結果を載せました。ご覧ください。

2 日進西中学校の結果について

(1) 国語

全ての領域・観点において全国・愛知県の結果より、平均正答率が高くなっています。中でも、「書く力」「読む力」の領域の正答率はとても高くなっています。また、「活用に関する問題」は、全ての問題で正答率が全国・愛知県を上回り、応用力が身に付いています。

しかし、「言語についての知識・理解・技能」や「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の領域では課題が見られました。「言語についての知識・理解・技能」では、「語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う」ことや、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」では「目的に応じて文の成分の順序や照応、構成を考えて適切な文を書く」「歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読む」など、言語についての基礎、基本や伝統的な言語能力が伸びる学習の工夫が必要であると考えています。

(2) 数学

全ての領域・観点において全国・愛知県の結果より、平均正答率が高くなっています。特に、「資料の活用」の領域では、全ての問題で全国・愛知県の結果より高く、必要な情報を選択したり活用したりする力が身に付いています。

一方、「数と式」の領域で課題が見られました。特に「絶対値の意味の理解」や「指数を含む正の数と負の数の計算や読み取り」などで力が定着していないところが見られました。基礎・基本のさらなる定着を図り、数と式に対する見方や考え方を伸ばす工夫が、今後一層必要であると考えています。

(3) 理科

全体的な領域・観点において全国・愛知県の結果より、平均正答率が高くなっています。中でも「生物的領域」の正答率はとても高く、自然事象への関心の高まりが見られます。

しかし、「物理的領域」では課題が見られました。実験が好きな生徒も多いため、観察や実験を通して、より知識として定着をはかる工夫が必要であると考えています。

(4) 生活面

「自分には、よいところがある」生徒は全国・愛知県に比べて高い傾向にあり、自己肯定感の高さがうかがえます。自己肯定感が高いと物事に取り組む意欲や幸福度にも大きな影響を与え、様々な出来事に対して積極的に取り組むことができ、幸福度も高まります。また、そのままの自分を認める感覚であり、「自分は大切な存在だ」「自分はかけがえのない存在」だと思える心の状態であることから、自分だけでなく、他者や周りも尊重することができます。学校や家庭生活の中で、お互いに尊重し合える関係が作れていると考えます。

学習に関しては、「数学や理科の勉強が好き」な生徒は全国・愛知県に比べて高い反面、「数学や理科の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考える」生徒は全体の半数以下であることから、授業で学習したことと普段の生活を結び付けて考える機会を増やしていく必要があると考えています。また家庭学習では、「家で、学校の授業の予習・復習をしている」生徒は全国・愛知県に比べて高く、家庭でも意欲的に学習していることがわかりました。その反面、「家で、自分で計画を立てて勉強している」生徒は全体の約半数であり、意欲的に学習には取り組むが、計画を立てる生徒が少ない現状が見られました。1年生の頃から計画的に学習に取り組む姿勢を身に付けていく必要があると考えます。

他にも、「地域社会などでボランティア活動に参加したことがある」生徒は全体の約半数以上いるのに対し、「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある」生徒は全国・愛知県を下回りました。与えられたことだけでなく、自ら地域社会について自主的に考え、行動する生徒の育成に努めていきたいと考えています。